

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】(ユニット2)

Table with 2 columns: Field Name (e.g., 事業所番号, 法人名) and Value (e.g., 0193200094, 医療法人社団 三愛会).

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

Table with 2 columns: Field Name (e.g., 基本情報リンク先URL) and Value (URL).

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 2 columns: Field Name (e.g., 評価機関名, 所在地) and Value (e.g., 企業組合グループ・ダイナミックス総合研究所 介保調査部).

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は幹線道路に面して近くコンビニや公園があり、買い物や散歩など日常的に出かけ活用させていただいています。地域の方々と町内会を通して交流の機会があり、さまざまな場面でご協力もいただけて地域に支えられていると実感しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は、名寄市の市街地に位置し、閑静な住宅街にある平屋建て2ユニットのグループホームである。駅前からの大通り沿いで、近隣には中学校や高校、市立大学があり、コンビニや飲食店などもある利便性のよい地区である。

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

Large table with 4 columns: Item No., Item Description, Achievement Status (O/□), and Achievement Details (List of 4 points).

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念をユニット内に掲示し、ケアプランを実践する中で模索と検討をしながら結果として理念に繋がるよう取り組んできた。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	事業所は町内会に加入して町内会のイベントに参加させていただいたり、事業所のイベントにお招きしている。今年は自粛が続いたので参加は少ないですが、日常的な交流はある。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	看護学生実習受け入れや運営推進会議の場を活用することで事業所のできる範囲で発信している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	2か月に一度開催している。本人・家族にも出席していただき活動状況や入居者の生活ぶりを報告し、皆さんから質問や意見などを受け、向上に繋がるよう活かしている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市担当者とは相談しやすい雰囲気と環境があり、直接出向き相談することもある。また、事業所運営やサービスに係る疑問等についてもすぐに対応と回答をいただいている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中、困難な事例では玄関に施錠をするかどうか迷うこともあるが身体拘束廃止委員会を中心に、定期的な検討と勉強会を重ね身体拘束に繋がらないためのケアの方法や係わり方など、模索しながら取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束と関連して、定期的に検討と確認をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	全体では学ぶ機会は持っていないが、管理者は対象になる方の申し込みや相談があった場合、関係者と話し合い活用につながるよう支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の相談時には当事業所について説明し、入居時にも契約書、重要事項説明書に基づき説明を行い、質問に対しても理解をいただけるまで説明を行い、不安を最小限になるよう努め同意をいただいている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	3か月に一度ケアプランの説明を通し家族とのコミュニケーションを図るよう努め、遠方の家族には電話で近況を伝えたりすることとしている。その中で要望を伺い運営に反映するようになっている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は毎月のケアカンファレンスでの話し合いに加わり、意見を聞いている。また、介護職と兼務し一職員でユニットにも入ることもあり、実践しながら考える機会を持つよう努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は年に一度の人事考課で個々の勤務状況や実績を把握し、個人目標を基に向上できるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修の機会を持つようにしている。外部研修についても今年は研修そのものが少ないが、内容と経験年数に合わせ受講できるよう調整を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	同業者同士で相互訪問する機会はほとんどないが、地域の研修会などで情報交換する機会はある。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に本人・家族、担当ケアマネージャーから情報をいただき、そのときの「困っていること」に耳を傾け、本人にもできるだけ理解を得られるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に管理者と計画作成担当者が本人に直接お会いして話を聞く時間を作っている。その中で不安なことや要望等聞き取り、入居に対しての不安を少しでも軽減できるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の面談の中で段階的にまず必要な支援を確認して、優先するものは柔軟に対応できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人のペースややりたいことを尊重しながらも、家事などを職員と一緒にやり、また役割という視野も含めながら出来ることを大事に支援している。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ感染拡大防止のため面会を制限していますが、面会や連絡を取る際には出来る限り詳細に現状を報告し、時には家族を巻き込んで協力をいただくこともあり一緒に支えさせていただいています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家にいた頃のようにはいきませんが、友人や知人の訪問や連絡も制限せず、場合によっては電話を掛けることも行っている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の会話や、様子などを伺い表情などもみながら食事をする席や日中過ごす場所、活動内容を調整し、その時その時に心地よい係わりが出来るよう配慮し、孤立しないよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後の支援はあまり行っていないが、意向や相談により対応していく。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の係わりの中で言葉や態度の真意を理解するよう努め、出来る限り職員間で共有できるよう努力している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に本人確認と家族、担当ケアマネジャーからの情報を基に把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の様子は記録に残し、その日その日の過ごし方も申し送りやケアカンファレンスなどで、現状を職員間で確認し把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアカンファレンスには本人・家族は参加していないが、職員が全員参加し日頃からの家族の情報・要望、本人の状況を勘案し、職員間で確認と検討をして新たな課題や必要なケアなど話し合いケアプランに反映できるよう努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアの実践を記録に残し、モニタリングに活かしているが、結果や気づきの記載については記録する時間が十分にとれず課題が残る。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々のニーズに応じ受診の支援を行っている。また、待機されている方には通所サービスやショートステイ利用が出来るよう取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	日中の散歩や公園へ出かけたり、近くのコンビニも利用したり、地域の季節ごとの行事に出かけるなど楽しめるよう努めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族が希望した医療機関の受診を継続できるよう支援している。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	法人運営の病院と連携し、医療連携で週1回看護師訪問があり、1週間ごとに体調について記録したものを基に報告し、看護師からも意見やアドバイスをもらっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時に治療方針などできる限りの情報をもらい、経過等についても連絡を取り、治療の進行状況や受け入れ可能な状況かどうかの情報交換をとりながら早期退院につなげるよう努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	申し込み時の段階で事業所でできることを伝え、契約時に重要事項説明書に記載の「重度化した場合における対応に係る指針」に基づき、利用者と家族に説明し同意を得ている。主治医の判断に基づき協議し希望に沿えるよう支援に努めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の連絡先や初期対応等、職員間で周知はしているが、消防の協力を得ながら救命講習を受けることも検討。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回は消防と地域の方々に協力をいただき避難訓練をしている。災害時に備えマニュアルを作成し飲料水、食料、ストーブを備蓄し、昨年には停電に備え自家発電装置の設置もしている。		

IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	身体拘束廃止と関連して接遇の勉強会を定期的に行い、プライバシーにつながる内容には配慮しながら目立たずさりげない対応をしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々、一人ひとりと会話に時間を作り、小さなことでも選択が出来たり、自己決定出来る場面作り心にかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	基本的には本人の言動を尊重しながら、余暇活動についても選択していただきながら、希望に沿えるよう心にかけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	職員側で判断して美容院などへ行くことが多いが、お化粧品したりする方もいておしゃれができるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの出来ることできないことを考慮しながら下膳、食器洗い、食器拭きなど一緒に行っている。献立も職員が考え、嗜好や希望も取り入れている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量と水分量の記録を行い、摂取量の把握をしたうえで、適切な食事形態で提供できるよう、職員間で話し合い、個々の身体状況や嗜好に合わせた食事を提供できるよう努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個々に応じた口腔ケアを行っている。歯科通院しながら口腔状態を評価してもらっている方も数名いる。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	紙パンツ、パットなど何らかの形で排泄用品を使用している入居者は約8割だが、個々の排泄パターンを把握し交換またはトイレでの排泄を支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日、体を動かす時間を持ち野菜や乳製品、乳酸菌飲料など摂れるよう支援しているが、便秘をしてしまった場合下剤を処方してもらっている。		
45	17	○入浴を楽しむことのできる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている	体調や気分、望む時間帯等に配慮しながら出来る限り希望に沿える様支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりのペースで入床と起床をしていただいている。午前中に運動などのアクティブな活動をして、夕方には静かに過ごせるよう配慮している。日中の休息を望まれる方など個々に合わせた休息时间にも配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方の変更があった場合は受診記録へ記入した上、申し送りで伝達している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	これまでの生活歴や、日々の係わりの中での会話などから、それぞれの楽しみや気分転換が出来るよう努めている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気に合わせて散歩や戸外に出かけられるよう支援している。今年は催しに参加することが難しいため、個々の状態に合わせて外の空気が吸えるような支援をしている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には本人にお金を所持してもらっていませんが、買い物や必要なものがあれば買い物ができる支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族からの電話は子機を部屋まで持っていき本人と話ができるようにしている。手紙は少ないが、季節の便りをやり取りしている方もいる。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	混乱しやすい方や、夕方になると落ち着かなくなってしまう方には、きっかけになる刺激は何かを探り音の出る掃除機は午前中に使用し、湿度や温度、テレビの音や部屋の向きによっては陽射しなども混乱に繋がらないか配慮している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	基本的には過ごしたい場所で過ごしていただいています。関係性にも配慮しながら座る場所も調整して、少しでも心地の良い時間を過ごせるよう配慮している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	安全を考慮しながら、本人、家族と相談して馴染みの物を持ち込んでいただけるようにしている。仏壇や趣味の物を持ち込んでいただくなど、個々に合わせた部屋になっている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	それぞれの状況に合わせた移動補助具の活用や配置に心がけ、行きたい場所に自分で行くことが出来、職員がさりげなく付き添うことにより大きな迷いもなく生活が出来ている。		